

## (株)レイン防水

会社設立から今年でちょうど30周年。漏水、腐食をストップ。小さなひびも見逃さず、建物の寿命を長持ちさせる防水施工・補修の専門家集団。

当たり前の事だが、建物も人間の身体と同じように早期発見・早期治療が最善の老化防止策。雨漏りにおいても発見・対処が早いほど、被害や補修費用も少なく済む。優れた技術者を養成し、社業の発展とともに地域の安全の下支えしている会社が山形市にある。(株)レイン防水。東日本大震災では津波に浸食された工場、地盤沈下した住宅の補修に奔走した。会社設立(1984年)から今年でちょうど30年。20人の職人集団を抱え、暑い日も寒い日も県内外の現場で活躍する企業を紹介する。

### 「楽しく仕事を」が一番

創業1978(昭和53)年。飯野代表が28歳の時だ。それまでは山形市内の防水会社で働いていた。とはいっても職人の集まりで、建設会社などの要請に応じて現場に赴いていた。今日の言葉で言えば派遣労働。しかし、それでは不安定だ。思い切って独立することによって、防水専門会社として施工はもちろん、材料の仕入れ、営業活動、アフターサービスを手掛けることによって安定した収入が得られ、優れた人材を育てることができると考えた。

経営方針?楽しく仕事をやるのが一番だ。会社はみんなのものだから。従業員は人生の大半を会社にかけている。やりがいを持って働いてもらうにはどうするか。責任を持った仕事をするには社員との信頼関係が基本です。それと

技術力アップと工期を守ることだ。顧客に迷惑を掛けてはいけない。(飯野正光代表取締役)

雨漏りや腐食の原因はさまざま。構造物それ自体の老朽化、地震や想定を超えたゲリラ豪雨や大型台風といった災害、デザイン優先による設計・構造上の問題、手抜き工事による欠陥建物やメンテナンス不足等々。

とりわけコンクリートのひび割れは水や炭酸ガスの進入路となり、漏水、鉄筋腐食を引き起こし、建造物に致命的なダメージを与える。また、モルタルやタイルなどに発生する浮きは、防水や美観上の問題のみならず、落下による事故の危険性を招く。

目視で「ここだろう」といった思い込みによる検討違いの施工や補修に際し、実情にそぐわない材料を使用すれば雨漏りを誘発する。建物の寿命が縮まるばかりか、木



材が腐朽しシロアリが住みついてしまう。また、カビが発生することでアレルギーなどの健康被害を誘発する。雨漏りにより予想される2次被害を防止するためにもスピーディーな対処法が求められる。そのためには「とにかく現場ですよ。社員と共に現場に足を運び、その場に立って考えること。現場の状況に応じて材料と工法を駆使する」と飯野代表は強調する。

### 原因に応じた材料、工法

アスファルト、ウレタン、塩ビシート、FRPと、防水は用途、工期、現場の状況に応じた工事法がある。アスファルトは数層重ね合わせて防水層を作る工法で、層が厚く連続しているために施工のばらつきが少なく信頼性がある。主に鉄筋コンクリート造りの建物の屋根などに使用されている。

ウレタン防水は、液体状のウレタン樹脂を塗り付けることによ

て弾性に優れた防水膜を作る。液体状の材料を使って仕上げる工法なので、複雑な形状をした場所でも継ぎ目のない完全な防水膜の施工可能だ。

塩ビシート防水は、1枚の材料でできており、屋外での日光による紫外線、熱、オゾンに対し優れた耐久性を持つ。FRPは耐衝撃性、耐久性に強い繊維強化プラスチックを使用する工法。木造住宅や駐車場といった構造物や、ボート、自動車のボディパーツ、浄化槽、バスタブ、ヘルメット、太陽光発電の基礎架台など幅広く利用されている。

独立後、発注先や材料メーカーの信頼が得て、住宅建築物の防水・防腐に加えて、トンネル内の水止め、給食センター、カントリーエレベーター、水産加工場、薬品工場といったような大掛かりな建造物を手掛けるようになった。

平成3年5月に現在地に本社を



(写真左)責任ある仕事をし、顧客の信頼を得られるには社員との信頼関係が一番と語る飯野正光代表(中央)。この日も現場で一緒に作業に臨んだ。(写真右上)片道3時間エリアへ営業活動を拡大するため山形市松波に設けられた本社。(写真右下)コンクリート構造物のひび割れ補修には樹脂を注入する。東日本大震災で数多く施された。

移転した。山形自動車道蔵王インターに近い場所にあり、国道13号にもすぐに出られる。同業者との競争を避けるためにも山形市周辺だけではなく、「片道車で3時間エリア」に営業範囲を拡大したかったからだ。宮城県はもとより盛岡、いわき市まで顧客は広がった。

### 大震災、復旧作業に奔走

そして2011年3月11日の東日本大震災。手掛けた建物が被害を受けた。多賀城市の工場は津波に遭った。石巻の水産加工場は工場内のエレベーター、冷凍庫が水浸しとなり、塩分でやられた。マンションや大学の建物は地震によって外壁などがひび割れ、住宅は地盤沈下した。工場の復旧には半年を要した。建物・外壁の損傷部分には樹脂を注入した。住宅の沈んだ所には発泡ウレタン入れた。

自社が手掛けた建物補修に取り組んだだけではない。

緊急車両の指摘を受けて、復旧作業に当たっている建設会社の現場に布団、食料、ガソリン、灯油、ブルーシート、合板を運び込んだ。あれだけの災害ですから…。被災地以外の仕事もこなしながら復旧作業に全力で当たった。社員全員が総力を結集した(飯野代表)。

「みんなで楽しく仕事をやるのが一番」をモットーに、責任ある仕事を、と日々、現場で飯野代表と社員が一緒になって汗を流し、技術のグレードアップを目指している。

(株)レイン防水 創業1978(昭和53)年4月。会社設立1984(昭和59)年4月。資本金2,000万円。飯野正光代表取締役。従業員20人。各種防水工事の専門メーカー。山形市松波1-6-12。☎023-641-0988